

[illegible]

卷之四

多收

[illegible]

如石之如

子月

十

十

[illegible]

[illegible]

朱子集注

竹石图

314 零

馬車がたて乳洞をくぐり

為高年無新何村台能取台汝汝  
 高年無新何村台能取台汝汝  
 高年無新何村台能取台汝汝

何家仙那以公等院請去而之云青巾  
 中少以心下系之身之教人得真上法  
 有長公上言巨細心之自能全人得  
 法者之能修悔付之果之能行再  
 情者之系之悔付之外言能行再  
 何家仙那以公等院請去而之云青巾  
 中少以心下系之身之教人得真上法  
 有長公上言巨細心之自能全人得  
 法者之能修悔付之果之能行再  
 情者之系之悔付之外言能行再

知不足齋

少卿為家  
世為家

丁巳

李氏劉氏

一、因氏戶口

[illegible]

鄧亨名

竹書山房

[illegible]

山内志高  
村山長年

劉尚書

何陋哉

廿日

十日

十日

古くは、  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



[illegible]

十五回

与和者

一每物之門見其為  
諸公但見其為

一 送仲珍孔翁入岳岳岳岳

以爲之

印表記

即古之義

即金瓶梅詞話的抄本

竹溪

中国科学院王明安先生  
 王明安先生

經  
此  
聖  
德  
子  
心

望

平江府志

竹溪先生

金史元

聖訓

白泥毛為泥

李

一

あるまじき事なりとて  
在りし時より此の如く  
其の事なき事なりと  
云ふ事なり

あるまじき事なりとて  
在りし時より此の如く  
其の事なき事なりと  
云ふ事なり

あるまじき事なりとて  
在りし時より此の如く  
其の事なき事なりと  
云ふ事なり

一

あるまじき事なりとて  
在りし時より此の如く  
其の事なき事なりと  
云ふ事なり

あるまじき事なりとて  
在りし時より此の如く  
其の事なき事なりと  
云ふ事なり

一

あるまじき事なりとて  
在りし時より此の如く  
其の事なき事なりと  
云ふ事なり



江表集

子

江表集

子

江表集

江表集

江表集

子

江表集

子

江表集

江表集

江表集

江表集

子

江表集

江表集

江表集

子

江表集

子

子

子



骨

十六日

有欲也

寶之

東坡先生詩集卷之四

竹園寺印石水榭乃宅部所建

娘台緣起亦甚奇  
作詩亦奇

卷之五

今

物之所趨也

五言古詩  
題謝安石像  
謝安石像  
謝安石像

正氣堂

子之

高士節在如也

何處故宮氣味

上卷五  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

此後諸君

重如石

子士習其術也

此上夢心

山吐雲氣紅牙老  
三危金華金華金華

接交與此乃在當時之

東國の地味を以て  
我々の地味を以て

都府の民分は皆  
以て我々の民分

我々の民分は皆  
我々の民分は皆

我々の民分は皆  
我々の民分は皆

我々の民分は皆  
我々の民分は皆

我々の民分は皆  
我々の民分は皆

我々の民分は皆  
我々の民分は皆

此詩在卷之十中其意深遠  
非筆墨所能形容其言  
後世之為人者不可不  
讀也

一 高麗金屋藏嬌事

一 花信月台修禊事

一 花信月台修禊事

一 花信月台修禊事

一 花信月台修禊事

一 花信月台修禊事

此詩在卷之十中其意深遠  
非筆墨所能形容其言  
後世之為人者不可不  
讀也

少林高麗  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋

高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋  
高麗金屋





1. 竹園に紅葉の散るをみれば  
心ゆくも秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。

中田の紅葉の散るをみれば  
心ゆくも秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。

1. 竹園に紅葉の散るをみれば  
心ゆくも秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。

1. 竹園に紅葉の散るをみれば  
心ゆくも秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。

竹園に紅葉の散るをみれば  
心ゆくも秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。秋の意にふさわしき  
ものなり。

+

六不問其何如之而先問其然否

水東子

公由是金溪人  
公由是金溪人

大正十三年三月

此卷乃...

氣血不和

竹石圖

五言古詩

多子

竹  
和  
代  
  
竹  
和  
代  
  
竹  
和  
代

心平氣和 萬事如意 財源廣進

大  
 子  
 子  
 子

卷之五

今之世  
今之世  
今之世

大

A vertical calligraphic inscription in black ink on white paper. The style is cursive (caoshu). On the left side, there are two red square seals. At the bottom right, there is a small signature and another red seal.

王蒙

1

100

五月

十九日

十

一 六ツ河多ノ人

高き山にありて

まき火の光をくみたりとて

みづをたぎらして

竹の葉をたぎらして

玉の枝をたぎらして

まき火の光をくみたりとて

まき火の光をくみたりとて

まき火の光をくみたりとて

まき火の光をくみたりとて

まき火の光をくみたりとて

まき火の光をくみたりとて

まき火の光をくみたりとて

丹

[illegible]

此卷至子何三子年皆書此卷

44

同治元年  
即書

時紙價甚貴書乃書於石上

例

石河子星夜後日對之五物已足矣  
月夜三夜金方下月星已足矣













一 自 然 界

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

一 以 爲 爲 自 然 界 之 一 部 分

一 其 他

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省

此後即中書省